



# みみだより No.42

鳥取聾学校ひまわり分校 聴能担当 R5.1.24

文責：手島

2023年（令和5年）がスタートして3週間がたちました。3学期も始まり、冷え切った校舎が子どもたちのにぎやかな声で活気づいたように思います。

1月22日に「遠藤記念日」という記念日があるのを知っていますか。「遠藤董（えんどうただし）」という人物の偉業をたたえる日です。実はひまわり分校にも深くかかわっている人物です。今回は、鳥取県出身の教育者として、盲・ろう学校の創設に尽力し、盲・ろう教育に心を捧げた遠藤董先生について取り上げたいと思います。



## 「鳥取県教育の父」 遠藤董先生ってどんな人？



1853年1月22日生まれ。小学校教育、女子教育や図書館設立など、鳥取県の教育・文化の発展に大きな貢献をされました。また、1910年に鳥取県に初めて盲啞（もうあ）学校を創設して障がい児教育の充実に努めた人物です。

### \* 盲ろう学校の設立 \*

～障がいのある子どもたちにも教育を～

昔は、障がいのある子どもたちの通える学校がなく、家で過ごすしかありませんでした。学校を作るため必要な寄付金を集めたり、自分の油絵を売ったりして資金を用意し、1910年私立鳥取盲啞（もうあ）学校（現在の県立鳥取盲学校と県立鳥取聾学校）を開校します。その後、26年間、子どもたちのためにかけまわり、学校を支え続け83歳になった遠藤先生は、県立鳥取盲聾学校の初代校長に任命されました。

### \* 遠藤記念日 \*

遠藤先生の誕生日でもあり、亡くなった日でもある1月22日を「遠藤記念日」と制定しました。現在でも、県立鳥取聾学校は、毎年その日に全校集会で遠藤先生の偉業をたたえたり、茶道部が初釜でお茶を出したりして、顕彰行事を行っています。



校長先生からの講話



遠藤先生ゆかりの神社へお参りする高等部3年生

### しちょう ただまごころ \* 視聴は只真心をもってす \*

晩年の遠藤先生は、「視聴は只真心をもってす」を教育理念としていました。「真心をもって見、聴き、接すれば、人は心を開いてくれる」という意味です。

視覚や聴覚に障がいのある人には、なおさら真心を持って接していかなければならないと、人々にも伝えたのです。



【参考】  
「しらべよう!47都道府県郷土の発展に尽くした先人」より

### ワンポイント 手話



「雪」



「寒い」

「おやこ手話じてん」より

